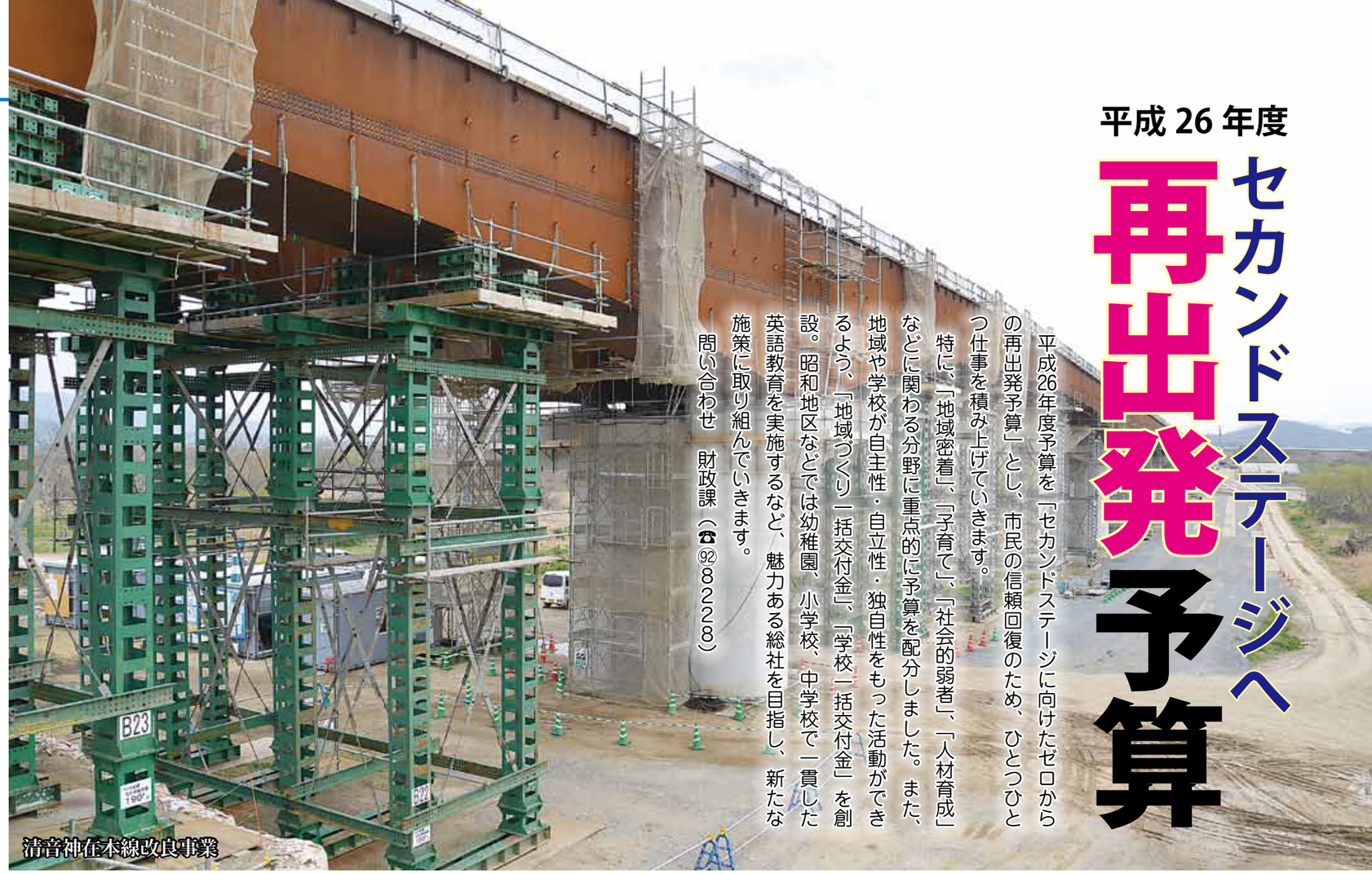
平成26年度

セカンドステージへ 再出発予算

平成26年度予算を「セカンドステージに向けたゼロからの再出発予算」とし、市民の信頼回復のため、ひとつひとつ仕事を積み上げていきます。

特に、「地域密着」、「子育て」、「社会的弱者」、「人材育成」などに関わる分野に重点的に予算を配分しました。また、地域や学校が自主性・自立性・独自性をもった活動ができるよう、「地域づくり一括交付金」、「学校一括交付金」を創設。昭和地区などでは幼稚園、小学校、中学校で一貫した英語教育を実施するなど、魅力ある総社を目指し、新たな施策に取り組んでいきます。

問い合わせ　財政課（☎92-8228）


清音神在本線改良事業

一般会計と7つの特別会計、2つの公営企業会計（水道）の平成26年度当初予算が決まりました。

一般会計の総額は275億6000万円と、前年度当初予算と比べ22億4000万円、率にして8.8%の増です。特別会計の総額は、前年度当初比2.5%増の167億100万円。水道関連の公営企業会計は、前年度当初比17.0%の増で、21億3110万円。全会計の合計は463億9210万円で、前年度当初比6.8%の増となりました。

一般会計の額が増えた主な要因は、地域づくり一括交付金や学校一括交付金、昭和地区等英語教育推進事業など、新規・拡充のソフト事業を導入することや、一般廃棄物最終処分場建設事業や小中学校校舎耐震化等改築事業など、雇用人口の定住化に向けた社会基盤の整備を行うことによるものです。また、消費税の増税による影響緩和のための臨時的な給付措置も実施します。

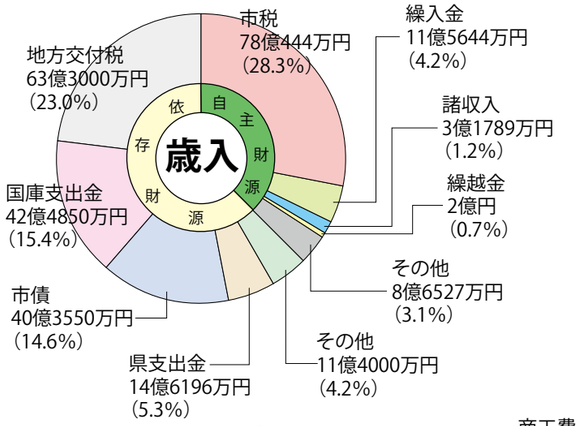
事業の主な財源として、国からの補助金、市債の借り入れ、財政調整基金などの基金（市の貯金）からの繰入金を充てています。繰り入れ額は、11億5644万円で、前年度に比べて2億1735万円、23.1%の増となっています。

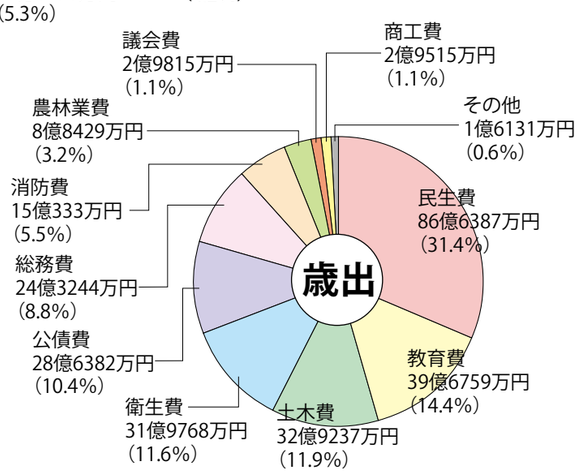
また、市の借金である市債の償還は、9年ぶりに30億円を切り、28億6382万円と前年度当初比で4.6%減ったものの、支出の10.4%を占めています。

着実に財政の健全性を取り戻しているなか、引き続き第2次行政改革大綱に基づき、経費の節減、事業の必要性や緊急性の検討を進めるなど、限られた財源の重点的配分と経費の効率的な執行に努めます。また、企業誘致を進めるなど、新たな財源確保に取り組みます。

特集
平成26年度予算
主な事業

■一般会計の歳入と歳出　総額275億6000万円





■一般会計・特別会計・公営企業会計別の予算額

区　　分	平成26年度	平成25年度	増　　減	前年度比
一般会計	275億6000万円	253億2000万円	22億4000万円	8.8%
特別会計	167億100万円	163億100万円	4億円	2.5%
国民健康保険	71億1000万円	68億6000万円	2億5000万円	3.6%
後期高齢者医療	7億1000万円	6億8400万円	2600万円	3.8%
介護保険	52億1200万円	49億6000万円	2億5200万円	5.1%
農業集落排水事業費	3億3700万円	3億1400万円	2300万円	7.3%
公共下水道事業費	20億6000万円	19億8300万円	7700万円	3.9%
国民宿舎事業費	6億9000万円	7億1500万円	－2500万円	－3.5%
総社駅南地区土地区画整理事業費	5億8200万円	7億8500万円	－2億300万円	－25.9%
公営企業会計	21億3110万円	18億2185万円	3億925万円	17.0%
水道事業	20億3670万円	17億7810万円	2億5860万円	14.5%
工業用水道事業	9440万円	4375万円	5065万円	115.8%
合計	463億9210万円	434億4285万円	29億4925万円	6.8%